



新中期経営計画がスタートした2024年度は、工事管理を徹底して建設事業の採算性が向上した。連結売上高は後半偏重でこれから伸びる見通しだ。製造販売事業はコス

道路舗装

日本道路

石井 敏行 社長

M&Aで事業領域拡大

ト上昇分を販売価格に少しずつ転嫁している。引き続き原油価格や為替の変動に一喜一憂せず、戦略的に採算重視の経営を展開する。

さまざまなステークホルダーとの共創による新規事業を加速させる。M&A（企業合併・買収）を推進し、バイオマス発電といった再生可能エネルギーや、PPP／PFIなどの事業領域拡大を視野に

入れる。創立100周年を迎える29年までに連結営業利益130億円（24年3月期78億円）の達成を目指す。

働き方改革に対応するため、AIに図面を読み込ませ自動で積算する技術をスタートアップ企業と開発中で、早期の実用化に向け試行中だ。企業の持続的成長には社員や組織のエンゲージメント向上が欠かせない。25年度に人事

評価制度や組織体制を見直す。女性管理職や新規事業に対応するスペシャリスト、将来的な外国人実習生の受け入れをそれぞれ増やしていく。

カーボンニュートラル（CN）関連では、各地にある合材工場の燃料ガス化や廃食用油などの活用を進める。海外はタイとマレーシアで実績のある建設事業に加え製造販売事業も検討する。廃ペットボトルを活用したアスファルト合材に興味があるというアフリカの動向も注視していく。

